

5月11日（日）礼拝 ペテロの手紙第一4章7、8節

7節「万物の終わりが近づきました。」

イエス様も「時が満ち、神の国が近づいた。」（マルコの福音書1章15節）と言われた。世は、時代は世の終わりに向かってまっすぐに進み、いつかは分かりませんが、イエスキリストの再臨の時に、世の終わり、万物の終わり、救いの完成の時が来る。

万物の終わりとは、4、5節にありますように、すべてが神の御前において明らかにされ、生きている者も死んだ者もすべての者が主の御前に集められてさばきの時。

- ① ヨハネの黙示録20章12、13節「また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。海はその中にいる死者を出した。死とよみも、その中にいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。～いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた」
- ② ルカの福音書10章20節「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
- ③ ヨハネの黙示録21章27節「子羊のいのちの書に記されている者たち」キリストの現れを待ち望んでいる私たちは、神のみこころによって生きる。それがペテロにとっては**祈り**だったということです。

「祈りのために、心を整え、身を慎みなさい。」心を整える＝「健全な心を持ち、状況を慎重に正しく考慮し、評価すること」身を慎む＝霊的に油断なく、警戒をゆるめることなく、また罪に誘う心の怠惰に迷い込むことがないように。

私たちの毎日の祈りを「もっと効果的に、もっと適切に祈るために」ということ。万物の終わりが近づいたことを常に意識しながら祈る。

- ④ ルカの福音書 14 章 38 節「誘惑に陥らないように目を覚まして祈っていなさい。」誘惑に陥らないように＝心を整え、身を慎むということ。そのためにも祈る必要がある。

8 節「互いに熱心に愛し合いなさい。」1 章 22 節でも「互いに心から熱く愛し合いなさい。」「熱心」「熱く」＝強い、深く感じられた、熱烈でさえある情緒、願望で、そのような愛をもって互いに愛し合いなさいと言われていています。それが神のみこころ。

- ⑤ ヨハネの手紙第一 3 章 16 節「キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛が分かったのです。ですから、私たちも兄弟のためにいのちを捨てるべきです。」とあります。

- ⑥ キリストご自身がヨハネの福音書 15 章 13 節「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」愛とは何かということが分かったと言える私たち一人ひとりに対して「互いに熱心に愛し合いなさい」「互いに心から熱く愛し合いなさい。」とされている。

そして、その愛は日々の人間関係の中で、「愛は多くの罪をおおうからです。」ということを実践していくべきです。罪をおおうとは赦すこと。

- ⑦ 箴言 10 章 12 節に「憎しみは争いを引き起こし、愛はすべての背きをおおう。」とある。愛のないところ、すなわち赦しのないところには、必ず争いが起り、ますます愛が冷えていく。

- ⑧ マタイの福音書 24 章 12 節「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えます。」世の終わりの時のしるしについて語っている。多くの人の愛が冷えると言われていたので、私たちはますます「互いに熱心に愛し合いなさい。」「互いに心から熱く愛し合いなさい」ということを実践していくべき。